

奥州金ケ崎地域医療介護計画（案）に対する意見公募（パブリックコメント）手続きの結果について

1 意見公募（パブリックコメント）手続きの実施要領

- (1) 意見募集期間 令和2年10月1日（木）～令和2年10月30日（金）
- (2) 閲覧場所 市ホームページ
市役所 福祉部地域医療介護推進室
各総合支所 健康福祉グループ（江刺）
市民福祉グループ（前沢、衣川）
健康増進プラザ悠悠館（胆沢）
- (3) 意見を提出できる方 市内に在住、在勤又は在学の方
- (4) 意見の提出方法 住所、氏名等を明記し、郵送、FAX、電子メール、持参のいずれかの方法による。（電話・口頭受付不可）

2 意見の提出状況 提出者 7人、意見数 28件

3 意見への対応区分と件数

A：計画へ反映させるもの	0件
B：計画同趣旨あるいは記載済のもの	4件
C：計画に反映させないもの	7件
D：その他（感想・質問等）	17件

4 意見とそれに対する検討結果等

提出者	項数	意見等（原文表記）	市の考え方	区分
1	1	<p>国の「病院再編統合計画」に当市の水沢病院とまごころ病院が指定され、そのこと自体「地域実態を無視」しているという点で問題があると思っています。</p> <p>全国的にも大きな反対の声が上がっている中で、<u>率先して病床削減する必然性はなく、国に異を唱えることこそ市民の生命を守る行政の役割だと思いますが、どうでしょうか。</u></p>	<p>市民が安心して生活することができるよう、生命と健康を守ることが行政の役割であると認識しております。当計画は、病床削減することが目的ではなく、将来に渡る医療ニーズの変化と地域の実情に応じた医療・介護の提供体制を確立するため、胆江医療圏の医療資源の現状把握を行い、人口推計や将来の医療需要を考慮した結果、胆江圏域全体として減床するものと判断したところです。</p>	C:計画に反映されないもの
	2	<p><u>地域医療の急務は小児科・産婦人科診療体制を確保し充実させることであり、病床削減は筋違いです。</u></p>	<p>安心して子どもを産み、育てることができるよう小児医療及び周産期医療体制の確保については、大変重要な課題であると認識しており、当計画においても、「特に検討が必要な項目」として位置付けているところです。市といたしましては、重点事項として医師確保や広域での連携強化について、引き続き努めてまいります。</p>	C:計画に反映させないもの
	3	<p><u>100床削減した場合でも医師確保できる確実な見通しがあるのか教えてください。</u></p>	<p>岩手県は医師の地域偏在が著しい地域と位置づけられ、医師確保が非常に難しい状況となっていることから、減床をおこなっても、その後の病床に見合う医師が確実に確保できるという見通しがあるものではありません。市立医療施設について医療機能やマンパワーの機能分担、集約を行い体制強化を図るとともに、市が独自に行っている医師養成奨学資金貸付対象者の確実な義務履行に繋げていくことにより、市立医療施設の医師を安定的に確保するため取り組みを進めてまいります。</p>	D:その他（感想・質問等）

4 意見とそれに対する検討結果等

提出者	項数	意見等（原文表記）	市の考え方	区分
1	4	<p>奥州市全体の医療体制を数字合わせや医師会などの思惑に振り回されるのではなく、<u>市民の健康と安心のために施策を立てて欲しい</u>と期待します。</p>	<p>当計画は、胆江医療圏の医療資源の現状把握を踏まえ、少子高齢化や人口減少が急速に進む中、将来に渡る医療ニーズの変化と地域の実情に応じた医療・介護の提供体制の確立に向けた協議を進めていくために策定するものです。また、市民が安心して生活することができるよう、市立医療施設としての役割を果たすため、現状分析等により今後不足する傾向が示された「在宅医療」の分野への対応や、感染症への対応等、8つの重点施策を掲げ今後の議論に繋げていくものです。</p>	<p>B：計画 同趣旨 或いは 記載済 のもの</p>
2	1	<p><u>入院ベッドの100床削減に強く反対します。</u> そもそも、奥州金ケ崎地域の医療を支える施設は、県立病院、奥州市医療局の所管する病院と診療所、そして民間病院・診療所で構成されておりますが、行政の基本方針は、平成の大合併によって広大な面積となった奥州市及び金ケ崎町の、どの地域に住んでいても市民が必要な医療を受けられる条件を作るべきであることは言うまでもありません。しかも、冬場は寒冷・凍結・積雪という悪条件が12月から3月まで続くことを考えれば、季節的に医療や介護のサービスを受けなければならない高齢者も多数いるかと思えます。また、私のように市外に実家があり、老親が独居している場合は、冬場だけでも引き取って一時的に医療・介護のケアをしてくださる施設が必要になります。懇話会の議論は、現状の医師数や患者数のみをとらえ、空きベッドがあるから削減するという極めて短絡的な考え方となっています。<u>近隣市町村や他県などからの交流人口も含めて入院ベッドを確保すべき</u>ですのでこの削減案には反対します。</p>	<p>行政の役割は、関係機関と連携を図りながら、市民の健康と生命を守るために必要な医療を提供することであると認識しております。 全国的に近年の核家族化や少子高齢化に伴い、ひとり暮らしの高齢者世帯が増加傾向にあり、ご指摘のとおり季節的な理由や個々の事情により一時的に介護を必要とするケースも増えてくることが予想されます。当計画策定にあたり行った医療資源の現状把握においては、医療機関の外来受診者数や入院患者数について、胆江医療圏外からの数も含めて現状把握を行っており、他医療圏からの流出入を含めて判断しているところです。</p>	<p>C：計画 に反映 させない もの</p>

4 意見とそれに対する検討結果等

提出者	項数	意見等（原文表記）	市の考え方	区分
2	2	<p>市民の地域医療に対する満足度について把握されていますか？ <u>奥州市民は今の地域医療に満足しているのでしょうか。もっと拡充してほしいと願う診療科や医師、治療内容等があるのではないのでしょうか。主権者であり、納税者であり、医療を受ける権利を持つ市民の声を先に聞いてから計画案を考えるべきではありませんか。懇話会は3回で十分でしたか。9名の委員で十分でしたか。地域に出かけて行って住民から意見を聞く姿勢はないのでしょうか。医療・介護関係者の意見だけで話を進めて良いとは思いません。一旦計画案を白紙に戻して、市民の意見を聞いて、一般公募の委員も入れて計画を作り直して下さい。県の計画に先駆けて市が縮小案を出すのは背信行為です。</u></p>	<p>小児や周産期、高度医療への対応など、当圏域において不足している医療があることは認識しており、今後も拡充に向けた取り組みを継続していくこととしているところです。当計画は、医療ニーズの変化と地域の実情に応じた医療・介護の提供体制を確立するため、胆江医療圏の医療資源の現状を踏まえた上で、胆江医療圏全体の方向性についての市町の考えをお示ししたものであり、これらをもって県が主催する地域医療調整会議において胆江圏域の医療体制のありかたについて引き続き議論されていくものです。また、市立医療施設としての役割を果たすため、機能分担及び再編の詳細については、次期奥州市立病院・診療所改革プランにおいて改めてお示しいたします。</p>	C：計画に反映させないもの
	3	<p><u>医師確保にどれだけ本気で取り組んでいるのか教えてください。</u> 胆江地区労働組合連合会議長から奥州市長宛に公開質問状を提出しました。奥州市長は、医師確保について、奥州市出身で県外在住の医師がどれくらいか把握していないと答えました。また、地元開業医のご子息やご令嬢で医学生又は勤務医になっている方の情報も持ち合わせていないとのこと。それで医師確保に努力しているのでしょうか。岩手県医療局や他の自治体がどんな努力をしているのか一度調査してみたらいかがでしょうか。秋田県鹿角市で地元の人たちが全国の道の駅に医師募集のチラシを送って精神科医師を2名確保したことは有名な話です。自治体も協力しています。参考にしてください。そして、医師確保など難しいからと県の責任にするのはやめましょう。まず自助努力でしよう。</p>	<p>岩手県は医師の地域偏在が著しい地域と位置づけられており、当圏域を含め全県的にも医師確保が非常に難しい状況となっております。当計画においても医師確保対策を最重要課題と捉え、優先的に取り組むこととしておりますので、ご指摘いただきましたとおり、市立医療施設の医師を安定的に確保するため、ひとりでも多くの医師に着任いただけるよう具体的な取り組みを検討し進めてまいります。</p>	D：その他（感想・質問等）

4 意見とそれに対する検討結果等

提出者	項数	意見等（原文表記）	市の考え方	区分
2	4	<p>地元医師会がなぜ総合水沢病院の縮小を求めているのか教えてください。人口減少に伴う自分たちの生き残りのためでしょうか。例えば、今回厚労省から再編統合のリストにあげられた県立江刺病院がさらに病棟を縮小するかも知れない場合、医師会や奥州市はどういう態度を取るのでしょうか。それでも市立医療機関の縮小を進めるのでしょうか。奥州市民が北上市や一関市に入院することを地元医師会や市長は願っているのでしょうか。<u>なぜ胆江地域内の地域完結型医療を目指さないのでしょうか。</u>結局、病院は儲からないから、財政危機だから、という話なののでしょうか？市民にわかりやすい説明をして下さい。</p>	<p>これまで、地元医師会から総合水沢病院の縮小を求められた経過はありません。</p> <p>また、令和元年9月に厚生労働省が公表した「再編統合の必要性について特に議論が必要な医療機関等」について、県立江刺病院、総合水沢病院、まごころ病院の3施設が該当となりましたが、当圏域においてこれらの議論、調整を進める胆江圏域地域医療連携会議においては、「公立、民間の垣根を超えた連携、調整が必要」との共通認識により今後、議論が進められることとなっているところです。それらの議論を進める中で、当圏域における地域完結型医療についての機能分担や医療連携の在り方等についても併せて検討を進めていくものと考えております。</p>	D：その他（感想・質問等）
3	1	<p>市民の健康と福祉を守るため日夜献身的に努力されている市長さんをはじめ職員の皆様に深く感謝します。限られた予算の中で課題を実現されることの困難さは押しはかるべしですが、公的医療の在り方と水沢病院の方向性についての私の意見を述べさせていただきます。</p> <p>「公立医療機関のベッド数100削減は、今市民が望んでいる、産婦人科医療の確保、新型コロナウイルス感染症対策の強化等から反対であり、将来を見据えて、新水沢病院建設のビジョンを打ち立て、市民に希望を与える計画としてください。」</p> <p>具体的な表現として、以下のページ区分ごと修正加筆提言をします。</p> <p>P19 課題対応</p> <p>1.人口推計と地域ごとの疾病動向/2.医療施設等の状況/3.医療需給の状況</p> <p>【課題】の○8番目の末尾に補足します。</p>	<p>周産期医療については、全国的な医師不足により大変厳しい状況であり、胆江圏域においても民間の2診療所に頼らざるを得ない状況となっていることから、市といたしましても公立、民間の垣根を越えて取り組んでいくべき事項であると認識しているところです。当計画におきましても周産期医療については小児医療、へき地医療と併せて「特に分析が必要な項目」と位置づけ、そちらの部分で課題や対応について別途記載させていただいており、それらの方向性に基づきながら、県が示す岩手中部・胆江・両磐周産期医療圏内の連携を強化するなど、市民が安心して生活ができるよう努めてまいります。</p>	B：計画同趣旨 或いは記載済のもの

4 意見とそれに対する検討結果等

提出者	項数	意見等（原文表記）	市の考え方	区分
3		<u>殊に地域の将来を支える周産期医療の後退に対し、公的医療がその役割を担っていくことが望まれています</u>		
	2	P22 特に分析が必要な項目（太字部分を追加） (1) 周産期医療の状況 【課題】の○3 番目「 <u>地元での出産が将来的に厳しい状況が想定されることから、を保証するための施策を検討し、併せて</u> 妊産婦に対する経済的、身体的な負担を軽減する支援の拡充が求められます。」とします。	ご指摘いただきました部分につきましては、周産期医療を取り巻く情勢が大変厳しいものとなっており、重点的に取り組む必要があるとの認識から「地元での出産が将来的に難しい状況が想定される」と記載させていただいているところであります。また、施策については【対応】の部分に記載させていただいており、それらの施策を進めることで、妊娠や出産に対する負担軽減に繋がるよう取り組みを進めてまいります。	B：計画 同趣旨 或いは 記載済 のもの
3		P26 2 市、町立医療機関の役割 (1) 総合水沢病院 の項 1 行「総合水沢病院は」から4行を削除し下記に入れ替える。 <u>県立胆沢病院とともに胆江地区における中核医療施設として住民の健康を支えてきましたが、人口減少、医療の高度化、国の医療政策の縮減、そして施設の老朽化の中で、常勤医師が減少し、あわせて経営の悪化が進んでいます。しかし、急性期、救急医療の多くを担う県立胆沢病院は現状でも職員の激務に支えられており、総合水沢病院はこれまでのような協力体制を担っていくことが必要です。この地域にとって今必要なことは早期に水沢病院を新築し、医師確保を図り、小児科、整形外科等を充足し、産婦人科を開設し、それを再建の道筋としていかなければなりません。</u> 以降5行目に続く。	総合水沢病院の現状と役割については、ご指摘のとおり様々な事情があると認識しておりますが、それらを踏まえ、主たる要因である医師不足と患者減少に集約して記載させていただいております。 施設や標榜科等の詳細につきましては、本計画が示す方向性に基づき各施設ごとに取り組む内容の詳細となりますので、現在策定を進めている次期奥州市立病院・診療所改革プランにおいてお示しさせていただくこととしております。	C：計画 に反映 させない もの

4 意見とそれに対する検討結果等

提出者	項数	意見等（原文表記）	市の考え方	区分
3	4	<p>P28 III市立医療機関の連携・再編</p> <p>1 国・県の情勢についての末尾に加筆</p> <p><u>しかし新型コロナ感染症の終息が見えていない中、今感染症対策を重視した医療体制の強化が求められており、現有体制については慎重な検討が望まれます。</u></p>	<p>現在、新型コロナウイルス感染症により市民の皆さんをはじめ医療現場も混乱する事態が続いており、圏域として感染症への対応が今後も求められていくものと認識しております。当計画における感染症の記載については、先に開かれた奥州市地域医療懇話会の中でもご意見をいただいております。市立医療機関の連携・再編に対する国・県の情勢の部分ではなく、市立医療機関が取り組む重点施策の部分で「新型コロナウイルス感染症等の新たな感染症への対応も考慮した体制構築を検討していく」との記載をしておりますのでご理解願います。</p>	B：計画 同趣旨 或いは 記載済 のもの
	5	<p>P29 2 市立医療機関の連携推進・再編について(太字部分を追加)</p> <p>(2) 病床規模の4行目「<u>ることを考慮して、市立医療施設全体として100床程度を減床すること</u>も協議された。」とし以降の文章削除し、次の文を差替える。</p> <p><u>しかし当面する総合水沢病院の新築計画、周産期医療の確保という課題の早期具現化が当該地区医療の将来を切り開くことになるため、現有ベッド数の削減は、その後に委ねるものとする。</u></p>	<p>当計画は、将来に渡る医療ニーズの変化と地域の実情に応じた医療・介護の提供体制を確立するため、胆江医療圏の医療資源の現状把握を行い、人口推計や将来の医療需要を考慮した結果、市立医療施設全体として減床するものと判断したところでありますのでご理解願います。</p>	C：計画 に反映 させな いもの
4	1	<p>初めに地域医療の確保、充実のため日夜ご努力されている医療従事者、そして担当職員の皆様にご感謝と敬意を申し上げます。本当にありがとうございます。今時の新型コロナ感染で、改めて医療関係者のご苦勞を感じ入っております。</p> <p>さて、地域医療計画についてのパブリックコメントを受け付け、受け入れるという事ですので、一言提案致します。</p>	<p>本来、地域医療に係る計画につきましては、都道府県において策定することが法的に義務付けられており、ご指摘の胆江圏域のグランドデザインにつきましては、(岩手県においては)平成28年3月に策定した地域医療構想及び二次医療圏ことに設置された地域医療構想調整会議(=胆江圏域地域医療連携会議、以下「連携会議」という。)での協議・議論により</p>	D：その他(感想・質問等)

4 意見とそれに対する検討結果等

提出者	項数	意見等（原文表記）	市の考え方	区分
4		<p>水沢病院建て替えについてですが、平成 19 年に市では、総務省の地方公営企業等経営アドバイザー事業を取り入れ、助言を頂きました。その報告書の中で「やらねばならない」という事ではなく、「やっていけるか」という事を重視すべきだと言っております。また、総括では「基本的に全てを水沢病院だけを考えたのでは解決できない問題だ。県立を巻き込んだこの地域全体の医療をどうするかという意味で今後検討する事が必要だ」と結んでおります。外からみた専門家の提言として重く受け止めております。</p> <p>公立病院の連携については、今開催中の地域医療懇話会や地域医療連携会議でも、亀井先生はじめ委員の皆様からも提言されております。</p> <p>総務省のこのアドバイスから 13 年が経過した訳ですが、医療経営環境はさらに悪化したと考えられます。人口減少や市の財政悪化は既に市当局で説明しております。そして、この先ますます先細りになると予想されます。昨年 9 月に厚労省から、統合再編すべき病院に、県内 10 病院があげられ、そのうち水沢病院、まごころ病院、江刺病院が入っております。正に経営環境が悪化したことの裏打ちのように感じました。</p> <p>市の方向性として「市立医療施設全体の運営を定めてから、県立との連携を進める」と伺っておりますが、まずは<u>胆江全体を考えた『グランドデザイン』を最優先すべきではないでしょうか。</u>「連携」とは正にこの事だと思います。</p> <p>全国に目を向ければ、県立と市立を解体して、独立行政法人を立ち上げた日本海総合病院をはじめ、多くの素晴らしい先例があります。</p> <p>耐震強度が心配される水沢病院、築 40 年経過の江刺病院、お医者さんの偏在化、高齢化対策等々これらの課題に対処する医療体制はどうあるべきか。私立病院を含めた医療資源をバランス良く、機能分担する事が大切ではないかと思えます。</p>	<p>構築していくものと位置付けられております。</p> <p>この地域医療構想の推進につきましては、骨太の方針などにおいて、圏域全体のほか、各医療機関の具体的対応方針（2025年を見据えた各医療機関の役割や病床数など）を連携会議で集中的に議論を進めることとされ、加えて、昨年は、厚労省において再編統合の必要性について特に議論が必要な公立・公的医療機関等を公表するとともに、連携会議での再検証など議論の活性化を要請されております。</p> <p>胆江圏域でも県（奥州保健所）が主催する連携会議において、病床数や機能分担等について議論、調整を進めることとしておりましたが、協議を進めるにあたり、この圏域の医療資源の現状や将来の医療需要について、しっかりとした把握・分析が必要との指摘があり、それが連携会議での議論を進める前提条件となったことから、今回の計画を策定することとなったものです。ただし、県・奥州保健所においては、当該計画の策定について、既に地域医療構想が策定されていることを踏まえ、新たな計画等の作成に対する積極的な意向が示されなかったことから、新病院建設等の議論を前に進めるためには、市（町）において策定する必要があると判断したものです。</p> <p>当該計画は、将来にわたる医療ニーズの変化と地域の実情に応じた医療・介護の提供体制を確立するため、胆江圏域の医療資源の現状把握を行い、人口推計や将来の医療需要を考慮するとともに、連携会議での議論を見据え、まずは、市・町立医療施設がどうあるべきか、どのように進むべきかの方向性を中心に作成させていただいております。</p>	

4 意見とそれに対する検討結果等

提出者	項数	意見等（原文表記）	市の考え方	区分
4		<p>今日まで市民の健康保持をされた、どの病院・施設も関わった皆様の存続の思いは計り知れないものと思われます。連携と一言で言いますが『グランドデザイン』を作成する事は、大変な決断と作業と思われます。でも関係者皆で力を合わせて開ければ、パンドラの箱も軽くなると思います。11万余の市民の福利厚生のため、宜しく願い申し上げます。</p>	<p>今後、当該計画の方向性を受け、市立医療施設に係る機能再編等の詳細を次期奥州市立病院・診療所改革プランでお示しし、その内容を来年2月に予定されている連携会議でご提案したいと考えております。連携会議においては、この提案をきっかけに胆江圏域全体の医療体制の検討が進められていくものと考えております。</p>	
5	1	<p>今回の計画に意見を率直に述べさせていただきます。</p> <p>民生児童委員を務めさせて頂いた経験から、福祉を必要とする世帯では突然の入院に迫られた時に、日常生活が大きく崩れ、入院した方を中心にした家族生活になります。当然、経済的、時間的制約の中で、家族の協力によりこの危機を乗り越えようと涙ぐましい努力をしている場面に遭遇してまいりました。（具体事例は個人情報ですので言及しません）このような時に、<u>磐井病院や中部病院に入院するとなると、家族が洗濯物など入院中に必要なものを毎日届けるのに時間的、経済的に大きな負担が生じ、大変な苦労を強いられ、入院を諦める事態となるのは明らかです。</u></p> <p>そこで、居住する地元で余裕のあるベッド数を確保しておくことは、市民生活の安心・安全にとって最も必要なことだと思います。市の財政が厳しい時だからこそ、いろいろな境遇の市民がおられる場合を想定して、歴史的にも厳しい財政の中で維持してきた<u>現在のベッド数を今後も維持できるように知恵をだして計画変更して頂きたい</u>と心から懇願します。</p>	<p>当計画は、現在の医療資源の状況把握を基に、今後の人口減少や高齢化に伴う医療ニーズの変化と地域の実情に応じた医療・介護の提供体制を確立するため、方向性をお示ししているものです。最終的に市立医療施設で100床程度減床することとしておりますが、減床後もこの圏域内の一般入院の需要には十分に対応でき、磐井病院や中部病院に入院の多くが移るものではないと考えております。更には、今後、需要の増が見込まれる在宅医療や高齢者の入院に対応できる分野に力を入れるために、機能分化と集約が必要と判断し、取り組みを進めることとしておりますのでご理解をお願いします。</p>	C：計画に反映させないもの

4 意見とそれに対する検討結果等

提出者	項数	意見等（原文表記）	市の考え方	区分
6	1	<p>8月29日付けの胆江日日新聞に投書しましたが、新型コロナウイルスから国民の命や健康を守るため国は<u>大幅な削減計画を見直す</u>との報道もある中で、しかもこの計画は<u>県が樹立すること</u>になっているにもかかわらず、県は未だ具体的な策定方針も示されていない中で、地元の言葉で言えば、はやはやって<u>市が病床数削減計画を立てなければならないのですか</u>。止めるべきです。止めれないのであればその理由を教えてください。</p>	<p>当計画は、平成28年3月に県が策定した岩手県地域医療構想の達成を推進するための協議を行うにあたり、医療資源の把握と分析が必要とのご指摘を受け策定を進めてきているものであり、「国が大幅な削減計画を見直す」及び「県が樹立する」等の認識は持っておりません。策定にあたっては、胆江医療圏の医療資源の現状及び将来の人口減少による医療需要等を踏まえた上で、胆江医療圏全体の方向性についての市町の考えをお示ししたものであり、これらをもって県が主催する地域医療調整会議において胆江圏域の医療体制のありかたについて引き続き議論していくものです。</p>	D:その他（感想・質問等）
	2	<p>総合水沢病院には感染症病棟があるという中で、新型コロナウイルスから市民の命や健康を守るため、病床数削減計画よりもいち早く<u>感染症指定病院の指定を受けるべきだ</u>と思いますが、こちらは未だ後回しでは全く理解できません。世界的・国内的大問題より、病床数削減計画が最々優先しなければならない理由を教えてください。</p>	<p>総合水沢病院は感染症病床を有しており、既に感染症指定医療機関の指定を受け、対応しているところです。</p>	D:その他（感想・質問等）
	3	<p>市の諮問機関には公募委員を入れているのに、この<u>市地域医療懇話会には、公募による市民や患者の立場から意見を述べる委員を入れなかったのは何故ですか</u>。教えてください。</p>	<p>当計画は、医療ニーズの変化と地域の実情に応じた医療・介護の提供体制を確立するため、胆江医療圏の医療資源の現状を踏まえた上で、胆江医療圏全体の方向性についての市町の考えをお示ししたものであるため、医療と介護の専門家からのご意見をいただくこととし進めさせていただいたところです。</p>	D:その他（感想・質問等）

4 意見とそれに対する検討結果等

提出者	項数	意見等（原文表記）	市の考え方	区分
6	4	<p>市の諮問機関であるにも拘らず、<u>水沢病院長や市病院関係者は入れなかった理由</u>を教えてください。奇異に感じたのは県が主催する胆江圏域地域医療連携会議には、水沢病院長やまごころ病院長が招かれ、この際とばかり発言していたことです。<u>病床数削減について胸襟を開いて十分議論されているのですか。</u></p> <p>病院長ばかりでなく、<u>その他の医師や看護師、薬剤師等の医療従事者との十分な内部協議をし、納得づくで病床数削減を原案として提起しているのですか。</u></p> <p><u>協議をしていないとするならば直ちに実施すべき</u>です。病床数削減で分限解雇される医師や医療従事者の人生や生活権を奪うことに全く触れておりませんが、どうするのですか。極めて重大問題です。</p>	<p>地域医療懇話会については、市の地域医療に関する必要な助言等を行うことを目的に設置している懇話会となります。今回は市が策定する計画についてご協議いただくため、院長や病院関係者を含めた医療局も計画を策定する市の事務局としての位置付けとなっております。計画については、胆江圏域の医療資源の現状把握を行い、人口推計や将来の医療需要を考慮した結果を基に作成しており、医療局と協議を重ねて作成を進めてきているものです。</p>	D:その他（感想・質問等）
	5	<p>9月12日付けの胆江新聞に投書しましたが、<u>市財政の悪化を市民の命と健康を守る病院に押しつけるのではなく、緊急に真っ先に取り組むのは市財政悪化の原因を徹底的に検証し明らかにすることだ</u>と思いますが、やる気がありますか。</p> <p>病院は赤字だから赤字だからと言いますが、市民の中には他の予算(例えば道路予算等)を削っても<u>市民の命と健康を守ることを優先してほしい</u>との意見もありますよ。大風呂敷と言われた医者でもあった水沢の誇るべき偉人後藤新平のように思い切った決断はできないのでしょうか。期待していいのでしょうか。</p>	<p>計画については、胆江医療圏の医療資源の現状及び将来の人口減少による医療需要等を踏まえた上で、胆江医療圏全体の方向性についての市町の考えをお示ししたものであり、その中で、今後公立病院として求められていく医療提供体制とするため、市立の医療施設において機能分化と集約を進めるべきと判断したものです。</p>	D:その他（感想・質問等）
	6	<p>市のホームページで見たのですが、市民との懇談の中で市長は「本庁舎の耐震は大丈夫。あと50年は使いたい。」と発言していることにビックリしました。何故かというと本庁舎は、本庁舎は昭和55年完成。水沢病院はその2年後の完成(同じ設計業者)で、後から建てた病院の耐震は既になくなって、先に建てた本庁舎が倍以上待つなんて一般常識では考えられません。建設当</p>	<p>計画においては、胆江圏域における今後の医療機能について記載しているものであり、各施設の耐震診断の状況につきましてはそれぞれの担当課へお問い合わせ願います。</p>	D:その他（感想・質問等）

4 意見とそれに対する検討結果等

提出者	項数	意見等（原文表記）	市の考え方	区分
6		時の院長は、当時の市長について「市長の理解と交友関係が大きな幸せであった。市庁舎よりも病院を建設しなさいとも言われた。病院の財政問題に余計な口出しはしなかった。(岩手の保健 223 号)」と述懐しておられる。改めて <u>両建物の耐震診断結果を明らかにしてください。</u>		
7		9月24日に開催された県が主催する胆江圏域地域医療連携会議の際に、市当局は「市は一生懸命病床数削減計画を血眼になって練っているのに県は何もしていない。何故なんだ。早くやれ。」としびれを切らしたような発言が見られましたが、そもそも <u>削減計画は県が樹立することになっている</u> と聞いているので、この発言自体本末転倒ではないかと感じたのですが、県が悪いのですか。	9月24日に開催された胆江圏域地域医療連携会議において、市長は「胆江圏域の医療圏をどのようにしていくかの協議を進めるために、市と町はこの計画の策定を進めてきたものです。今後更に進めていくためには、県のリードが重要なポイントとなり、県、市町、市立の枠組みを超えた連携が必要となるため、お力をお借りしたい。」と発言しているものです。 また、現段階において県が削減計画を樹立するという認識は持っておりません。	D:その他（感想・質問等）
8		同じく同会議で市の諮問機関に入れなかった水沢病院長は「市が新しい病院構想を示せば医師は来てくれると思う。」と発言していましたし、「岩手の保健(223号)」の寄稿文では、「若手医師たちが呼び込める病院づくりをしたい。」と抱負を述べています。現在水沢病院の病床数は148床と聞いていますが、 <u>100床削減し48床になれば、若手医師たちは喜んで来てもらえる病院となると考えていますか。教えてください</u> 関連して、現在担っている救急医療は48床で対応できるのですか。確か、県が主催する胆江圏域地域医療連携会議の際に、今後とも水沢病院には救急医	当計画において、市立医療施設全体の病床数としてお示ししておりますので、今後それぞれの医療施設の病床数や機能については、次期奥州市立病院・診療所改革プランの中でお示しすることとしております。また、魅力のある病院や救急対応については、病床数の大小に起因するものではなく、その規模の中でいかに求められる医療を提供できるかの中身が重要であると考えております。胆江圏域の救急体制には市立医療施設が担っている役割は大切なものと認識しており	D:その他（感想・質問等）

4 意見とそれに対する検討結果等

提出者	項数	意見等（原文表記）	市の考え方	区分
6		<p>療体制を担っていただかなければこの地域の救急医療は崩壊するとの発言があったように記憶しているのですが、十二分に対応できるのか教えてください。</p> <p>水沢病院長が言っている若手医師たちが喜んで来てもらえる病院として存続（そのためには、日進月歩の最新の医療設備や機器類を備えた新病院建設は絶対必要となる。）するためにも、また今後も救急医療体制を維持していくためにも、且つ新型コロナウイルス対策に対応する感染症病棟を今後も維持していくためにも、<u>現在の病床数 148 床（私は、48 床で黒字経営は不可能と考える。）は、最低限維持しなければならない数字ではないでしょうか。</u>私の考えは間違っていますか。根本的に間違っているなら詳しく説明してください。</p>	<p>ますので、引き続き救急医療の分野についても対応してまいります。</p>	
9		<p>また、過疎化、少子化、高齢化が進行する中で、奥州市に若い人を呼び込めれば生き生きとした奥州市が出来ていくのではないかと考えます。そのためには、<u>水沢病院に小児科と一緒に産婦人科を設置し、「安心して子供を産み育てられる奥州市」というキャッチフレーズで大々的に打って出ること</u>はできないでしょうか。市内で産婦人科がまたなくなりそうだとの情報も飛び込んできました。これでは、加速度的に少子化が進む。このような危機的状態にあるのに、前向きでもっと積極的な施策が全く見られないのが至極残念です。どのようにして少子化・過疎化を防いでいくのか具体的に教えてください。</p>	<p>周産期医療については、全国的な医師不足により大変厳しい状況が続いており、市や町が単独で解決できる状況にはありません。胆江圏域の医療、介護の関係者が協議する胆江圏域地域医療連携会議においても、小児や周産期の問題については公立、民間の垣根を越えて取り組んでいくべき事項であるとの共通認識で協議を進めていくこととしているところであります。当計画におきましても「特に分析が必要な項目」と位置づけており、現在の分娩取扱施設の継続支援や広域での連携を強化するなど、市民が安心して生活ができるよう努めてまいります。</p>	D:その他（感想・質問等）

4 意見とそれに対する検討結果等

提出者	項数	意見等（原文表記）	市の考え方	区分
6	10	<p>更に、県が主催する胆江圏地域医療連携会議の際に、奥州市社会福祉協議会会長が「市の計画では在宅医療や介護が全く見えていない。」と発言していたが、市の諮問機関の委員の構成を見ても私もそう思う。本音は、市立病院潰しの諮問機関ではなかったのかと疑いたくなるのですが、私の勘違いですか。</p>	<p>地域医療懇話会については、市の地域医療に関する必要な助言等を行うことを目的に設置している懇話会となります。当計画における在宅医療や介護の部分については、医療連携の方向性を記載させていただいております。市では介護の部分については別途介護保険事業計画を策定しており、現在策定を進めている次期介護保険事業計画において、詳細の事項を盛り込むこととしております。</p>	D:その他（感想・質問等）
	11	<p>そもそも水沢病院は、昭和 29 年の全国的な市町村合併前の昭和 26 年に当時の胆沢郡の町村が合意して胆沢地方国民健康保険町村組合水沢病院として発足しています。しかし、昭和 29 年以降の合併市町村（水沢市、前沢町、胆沢町、衣川村、金ヶ崎町）が新たに誕生し、その後のそれぞれの医療行政の変遷を経て様々な医療施設を建設し抱えてきましたが、金ヶ崎町を除き江刺市を含めて合併し、奥州市となった訳です。この奥州市は、当時の胆沢郡に加えて江刺郡も加わった訳ですから、<u>奥州市全体の医療政策を原点に戻って根本から見直し、その上に立った新たな水沢病院建設の検討をすべき</u>と考えますが如何でしょうか。</p>	<p>当計画は、医療ニーズの変化と地域の実情に応じた医療・介護の提供体制を確立するため、胆江医療圏の医療資源の現状を踏まえた上で、胆江医療圏全体の方向性についての市町の考えをお示ししたものです。新病院建設については、当計画の方向性を基に、市立医療施設に求められる役割を判断したうえで、建設に係る協議を再開することとしております。</p>	D:その他（感想・質問等）
	12	<p>最期に、今貧富の格差がどんどん広がり、このままの新自由主義経済で良いのかということが世界的にも日本でも問われはじめてきており（令和元年 5 月 5 日の岩手日報の記事によれば、世界の富豪 26 人が 38 億人分の資産を保有し、日本では資産 10 億ドル（1,100 億円）以上のビリオネシアと呼ばれる日本人は 32 人、それに引き換え非正規労働者は 2,165 万人に達しているという。）今回の国の大幅な病床数削減計画も新自由主義経済に則った医療政策版ではないでしょうか。私としては許せません。私は、つつましく暮らしている奥州市の<u>市民の命と健康、暮らしを守る立場に立った地域医療政策を打ち出して欲しい</u>と是非とも願うものです。市の見解をお伺いします。</p>	<p>計画については、胆江医療圏の医療資源の現状及び将来の人口減少による医療需要等を踏まえた上で、胆江医療圏全体の方向性についての市町の考えをお示ししたものであり、その中で、今後公立病院として求められていく医療提供体制とするため、市立の医療施設において機能分化と集約を進めるべきと判断したものです。</p>	D:その他（感想・質問等）

4 意見とそれに対する検討結果等

提出者	項数	意見等（原文表記）	市の考え方	区分
7	1	<p>当地域の医療介護の拡充を進める視点での計画策定を望むものである。地域医療連携会議において、<u>県が病床の削減を前提にしないと言っているにもかかわらず、病床削減に固執するのはいかがなものか。</u>一旦削減すれば、増床させるのはほぼ不可能であり、慎重に考えるべきである。</p> <p>また、大雑把すぎてどの診療科の病床がどうなるのか、どうしたいのかが見えません。更に病床削減は全て市立医療機関が負うというもおかしな計画です。現状で足りていない診療科があるのに、充足させる計画がない。産科も当地域からなくなる危機があるのに、<u>県・国に周産期医療センターの設置要望を継続するだけでいいのでしょうか。</u>新型コロナ感染拡大にみられるよう、医師や病床はもとより、医療スタッフや医療機器、ICU など、日頃からの備えと余裕が必要と考えます。</p> <p>病床が残っても、医師がいないのでは、病棟閉鎖という事態になりかねません。医師不足は全国的な問題であり、国に医師養成の拡充を迫ることが必要ですが、<u>まずは当医療圏として医師確保に向けて、行政と住民が一体となって取り組むことが重要と考えます。</u></p>	<p>当計画は、胆江医療圏の医療資源の現状及び将来の人口減少による医療需要等を踏まえた上で、胆江医療圏全体の方向性についての市町の考えをお示ししたものであり、市医療施設の詳細については、次期奥州市立病院・診療所改革プランで検討することとしております。また、周産期医療については、全国的な医師不足により大変厳しい状況が続いており、市や町が単独で解決できる状況にはありません。胆江圏域地域医療連携会議においても、小児や周産期の問題については公立、民間の垣根を越えて取り組んでいくべき事項であるとの共通認識で協議を進めていくこととしているところです。当計画におきましても「特に分析が必要な項目」と位置づけており、現在の広域での連携強化や妊産婦等に対する負担を軽減する支援の拡充などに努めてまいります。医師確保対策については、当計画においても圏域全体の最重要課題と捉え、優先的に取り組むこととしておりますので、ご指摘いただきましたとおり、市立医療施設の医師を安定的に確保するため、ひとりでも多くの医師に着任いただけるよう具体的な取組みを検討し進めてまいります。</p>	D:その他（感想・質問等）